

# 履正社 柔整

— 報酬誘導と自浄努力がいつか大きなイノベーションを引き起こす —

学科長 田中 雅博



こんにちは。残暑が厳しい夏でした。8 月下旬に東北・北海道で発生した豪雨災害により、たくさんの命が奪われ、家屋や財産が流されてしまいました。また、10 月に発生した鳥取中部地震においても、多くの家屋が倒壊し、多数の方がいまだ避難されております。被災及びおよび避難されている方々には、早期の復興復旧と 1 日も早く元の生活に戻られることを心よりお祈りいたします。

さて、ニュースやお茶の間のゴールデンタイムにもテレビで報道されていたように、**柔道整復師養成学校のカリキュラムが大幅に改定**されることが決まりました。平成 30 年 4 月からの実施です。今回の改定で注目し値するところは、高齢者に関する科目の設定、職業倫理や柔整の適応疾患に関する科目を追加した事、**臨床実習を 4 倍、**

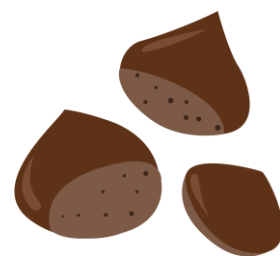
**180 時間の履修**とした事などです。

**2025 年問題を目の前にし、団塊の世代がすべて 75 歳以上になり、約 3 人に 1 人が 65 歳以上、人口の 20% が 75 歳以上**になる。これが何を意味しているのか、医療介護の産業で従事する我々の業務がどうなるのか、人材不足の現状から推測すると、この膨大な高齢者数に現有勢力で対応できるのか寒気が立ちます。この人口年齢構成の社会変動を教育に反映した結果、高齢者に関する科目が設定されたのでしょうか。そのような意味からは、職業倫理や適応疾患の鑑別も療養費適正化での行動や、柔道整復師が反社会的勢力と関わり保険取り扱いの犯罪で検査された事からみても、社会要請に基づく根拠であると言えるでしょう。

臨床実習の履修時間の大幅増加が行われます。カリキュラム検討委員会の議事録を閲覧すると、ある委員の中から以下のような意見が見られました。『看護師や理学療法士の実習の時間数よりも極端に少なかったのはなぜか、看護師や理学療法士は医師の指示(補助行為)で行うが、**柔道整復師は自分の判断で鑑別も処置も、リハビリも行う、もっと実習を増加させるべきだ**』と。※内容と意図は変えず、筆者の責任で加工。

**社会的変動から課題を見出し、社会にフィードバックし、反映させる。時代の要請で与えられた責務を全うし、全力で自浄努力をする。**努力をしない柔道整復師は淘汰されるでしょう。

この度の改定で特筆すべきことがもう一つあります。**療養費料金改定**です。大きく区分すると、「骨折・脱臼」と「捻挫・打撲・挫傷」の二つのカテゴリーに分類され、それぞれの疾患別に処置料(整復固定)とリハビリ(後療)料の保険費用が決まっています。この度の改定では、この**骨折脱臼関連の処置もリハビリも近年になく大幅にアップ**しました。例えば、**肩関節脱臼の整復料が 6200 円から 7900 円、橈骨下端骨折は 9000 円から 11500 円**となっています。**骨折後療が 630 円から 810 円、脱臼後療も 530 円から 680 円**と、捻挫打撲の後療に比べ上昇幅が大きくなっています。すなわち、国とすれば、**柔道整復師はしっかり臨床研修を積んで、国民のために、徒手整復、保存療法という本来の業務を真摯にやりなさい、しっかり報酬をつけておくから**。ということだと私は解釈しています。事実、様々な条件で異なりますが、昨年度の接骨院 1 院当たりの年間平均売上高は約 900 万(5 年前は 1200 万)。骨折脱臼の来院患者率は約 0.2%。1000 人に 2 人しかいません。**骨折脱臼患者を増やすことができれば、国が意図する報酬誘導を利用して息を吹き返す接骨院に成り得ます。**



それには徒手整復、保存固定の自然療法の良さを国民に訴え、また増加し続けている**医療費の抑制策(単純計算ですが同じ疾患の治療であれば、医科の 1/3 の費用で済む)**としても積極的にアピールし、患者貢献、社会貢献を着実に遂行できれば、イノベーションが起こるのではないかと考えています。ただ、そのためには国家免許者として与えられている、本来の業務の臨床研修を積み上げて、医療過誤などを発生させない、**患者安全、医療安全の徹底**が必要です。平成 30 年 4 月からの入学生は卒業後 3 年間、療養費取り扱いの制限が加わり、事実上開業できなくなります。**この制約も 3 年間の自浄努力の如何によって、大きなイノベーションの追い風**になるでしょう。

まさしく我々は時代の渦中に置かれています。医療費の削減策は重要な課題です。飲み込まれるか、社会要請に応え、社会に認められる柔道整復師になるか、最後のチャンスかもしれません。**今、そのタマゴをしっかりと教育していく使命と責任**を感じています

## <各学年の動き>

- 1年生**：学校に入って、初めての定期試験いかがでしたか？勉強成果を感じた人や、思うように点数が取れなかった人、まあこんなもんやろ！と余裕をかましている人、様々だと思いますが、この結果を十分に考え、後期試験にむけて今からコツコツとやっていきましょう！それが、国家試験合格への近道ですよ。（竹）
- 2年生**：2年生の前期試験も終了し、学生3年間の半分が過ぎました。試験の結果はどうでしたか？1年生で勉強した基礎知識はしっかり使えていますか？臨場的な勉強に戸惑っている人は早く理解できるように努力しましょう！あと、海外研修や臨床実習で色んな事を経験してきて、そろそろ将来の事を少しずつ考えないといけない時期になってきました。そのためには、『今』の自分に何が必要か、しっかり考えて行動するようにしましょう！あつと言う間に時間は過ぎていきますよ！！（西）
- 3年生**：3年生、残りわずか。勝負の時です。財団試験はどう？卒試は？国試は？タイムスケジュール管理はできていますか？何事も計画性を持ってやらないとね。雷に打たれて急に頭が良くなる事なんてないで！一步一步の積み重ね。お天道様は見ているよ。ただ、自分のペースでやっていれば良いってもんでもないよ。時には第三者評価も受けないと、自爆するよ。現状把握！そこからは逃げちゃダメ。気合いと根性！「なにくそ！」だぜ。（桃）

## <学園だより～プロ野球ドラフト会議2016～>

履正社高校野球部 寺島成輝くん（東京ヤクルトスワローズ）山口裕次郎くん（北海道日本ハムファイターズ）履正社医療スポーツ専門学校 木村敏靖くん（東北楽天ゴールデンイーグルス）がドラフト指名されました。

## <体育祭 2016 【 絆 ～魅せろ団結～ 】>

10月20日（木）RACTABドームにて体育祭が行われました！

年に1度、一堂に集まるイベント。今年のテーマは「絆～魅せろ団結！！～」

普段は接することのない他学科の学生とも団結できたでしょうか？柔道整復学科の最高順位はT先生率いる1年生午前部（赤チーム）で、第二位でした！おめでとうございます！今年の柔道整復学科は惜しくも優勝を逃しましたが、来年こそは絶対優勝するぞ！！

今年から結成された釜谷副校長率いる教員リレーチーム。実は学校近くの公園に集い、朝練でバトンパスの技術を磨いていたとか…。密かに優勝を狙っていた教員チーム。けが人続出により完走すら危ぶまれる状態でしたが、来年も結成されるのでしょうか？



## <第13回 校内学術大会・特別講演>

H28年9月17日(土)、柔道整復学科学術大会が開催されました。3年生の代表5名が頑張って作成した卒業論文を発表しました。2年生の皆さんには卒論の参考になったと思います。本年度は、『今できることに全力を』をテーマに掲げ、梅田裕希実行委員長の元、各学年の実行委員が主体となって運営した大会です。何度も打ち合わせを行い、またハギーコーポレーションのご厚意により、数々の医療機器の展示においては学生たちが興味のある治療機器を体験・見学することもできました。

### 特別講演

公益社団法人 大阪府柔道整復師会

理事 河井 好照 氏

演 題 『柔道整復師としての、骨折、脱臼、  
筋・腱損傷へのアプローチ』



### 発表者

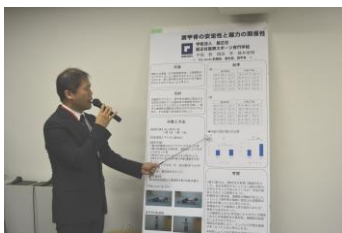
### 演 題

- 1) 坪井 亮磨 『高齢者の機能低下予防での体操』
- 2) 岡本 翔馬 『ストレッチでスイングスピードはあがるか』
- 3) 紙岡 里帆 『精油が疲労度に与える影響』
- 4) 松谷 和馬 『4スタンス理論に基づくバランス能力の一考察』
- 5) 竹内 亮佑 『腓骨筋トレーニングにおける体重の乗り方』



## <第41回(公社)日本柔道整復師会 近畿学術大会 奈良大会>

10月23日(日)歴史の町、奈良県社会福祉総合センターで近畿学術大会奈良大会が開催されました。今年も3年生が作成する論文から2名を選抜し、中筋 勲君「肩甲骨の安定性と握力の関係」、田中優唯さん「足関節背屈制限と跳躍高の関係」が発表しました。堂々とした発表で、頑張った成果が窺える発表でした。



また、この大会には1・3年生も参加し、特別講演・基調講演を聴講し、学生ポスター発表に参加しました。

数年後に同じ舞台上に立つ事をイメージし、さらに将来、活躍する上で様々な知識を吸収出来たのではないかと思います。



## <タナカジャーナル>

### 『世界最強の軍隊を持つ、国家元首に何が必要か』

ヒラリー・クリントン元国務長官とトランプ氏の競り合いの話題は、1年前から連日メディアで流れているように思う。元国務長官で大統領の経歴を持つ夫の妻、成金大富豪との違い。政治に対して角度も視点も異なるのは当然であり、互いの言い分や主張も隔たりがある。それを支援するアメリカ国民も生き様が異なっているのであろう。他国の国民から指摘されることではないと非難を受けそうであるが、まぎれもなく、アメリカは世界最大で最強の軍隊を持つ、国である。言い換えると、世界平和の安定に不可欠な国家である。一方的な力による現状変更で領海や領土を侵犯している中国や、核実験を繰り返す北朝鮮に対して、大きな影響力・抑止力を発揮しているのは紛れもない事実であろう。

9月上旬に選挙遊説中、熱中症でよめいたクリントン氏の映像が放映された。彼女は68歳、トランプ氏は70歳だそうだ。オバマ氏は55歳。大統領の資質担保に単純な年齢条件は当てはまらないかもしれないが、オバマ大統領がどこにでも、常に身近に黒い頑丈なアタッシュケースを持った側近が帯同している事をご存じだろうか。中に米国全土を包囲した敵に向けてまたは特定の国に向けて、核攻撃を指示できる無線スイッチだそうだ。内容は超極秘情報であり詳細は一切不明だが、核爆弾の発射命令装置であることは明確にされている。5月30日、広島を訪れた際もそうであった。世界唯一の被爆国、広島での訪問でさえも、である。

もちろん、大統領に万一の事態が発生した際の『保険』は組まれているだろうが、事が事だけに有事が発生した際は、心身とも健常であっても、事後の未来見詰め、極めて正義ある判断が求められることは間違いない。

二人の競り合い演説や、言動、失態、無配慮放談、体調不良、そして高齢なる状態。無力であるが、同盟国である国民の一人として、先を深く懸念している。

## <語録「履正林」>



### 1. 療養費：

医師や歯科医師の診療報酬に対し、柔道整復師や鍼灸師、あんまマッサージ指圧師の治療に対する報酬を療養費支給申請(略して療養費支給)と呼んでいる。医科と同じ保険取り扱いの権利でまとめると簡単なようであるが、実は非常にややこしい。なぜそのようなややこしい話になっているかを説明すると、質疑応答を含め、理解をいただくのに、三日三晩の時間を要するといつていいほど、柔道整復師発祥の歴史、経過、時代の変革あたりを復習し、当時の柔道整復師に対する社会要請などの想像もしてもらわないと、真からの理解は得られない。授業で学生にその話をすると、『センセー、整体師も歴史が古い資格ですか、保険は遣えるんですか』と、疑うような質問をする3年生がいる。関係法令を担当している教師として、絶句したのは言うまでもない。

### 2. ケアマネジメント：

履正社柔整の卒業生で、介護保険施設で勤務する者が増えてきた。今年から介護予防スペシャリスト専攻がスポーツ学科で設置されたが、時代は高齢者の介護対策、介護予防対策に大きなエネルギーが注がれている。要介護者・要支援者（以下、利用者）に対する様々な公的介護サービスはあるが、利用者に対する介護で最も大切な事は、ケアマネジメントがしっかりとできているかどうかである。ケアマネジメントとは、一言でいうと、利用者のQOLを向上させるため(家族のレスパイトケアを含む)にどんな支援ができるのか、である。通所介護施設も経営運営している、教務のF先生は『ケアマネジメントを通じて利用者さんスタッフも元気になりましょう、元気にしないとお金稼げないでしょ』と極められている。F先生のデイサービスの利用者には元ファイナンシャルプランナーがいるかもしれない。稼ぐ魅力はQOLの向上に寄与することを、私は信じて疑わない。

### 3. 新しゅんべん横丁：

記憶から遠ざかってしまったかもしれないが、履正社の通学路にあった、阪急十三駅西口のしゅんべん横丁が、2年半前の2014年3月7日、13:32に32店舗が火災で焼け落ちた。履正社職員・学生は、通勤通学路の変わり果てた姿に皆ショックは大きかった。しかし、まだ完全ではないが、再建が進み、すでに新しい店舗で営業をされているお店もある。十三トリスの看板もおかれた。赤ちょうちんも所々に飾られて、西口を出た正面の洋菓子&饅頭屋さんも再開し、懐かしい店の名前も姿を現している。火災前とは風情が少し異なるが、でも十三のDNAはしっかり感じる事ができる。西口出て右折のしゅんべん横丁はまだ通行できないが、のぞいてみると道路も整備され新しゅんべん横丁が再開される日は近い。約3年ぶり変わらないテイストを楽しみにしている。

### 4. 夏季集中講義：

今年度より1,2年生は土曜日休講になっている。メディカルアスリート専攻の学生は試合や練習に打ち込めるので好評だ。しかし授業時間数が確保できない代償があり、夏休み返上で集中講義を実施した。大阪狭山市にある大学の医学部で2週間にわたり授業を行った。となりに附属病院があり、学生たちが、点滴や導尿カテーテルが留置されたストレッチャーの患者さんを観察している姿や、廊下で松葉杖・歩行器の訓練などを見かけると、すぐさま院内の廊下の端に移動して歩く姿は、少し医療人の自覚が出てきたかと、たくましさを感じた。ところが引率のM先生やF先生は、学生とともに食堂で配給された弁当を見て『さびしいですな、こりゃあ』と、弁当評価を第1にしていた魂を、学生に語ることはできない。

### 5. 単位認定試験：

以前は9月に行われている試験を前期試験・2月は後期試験と呼んでいたが、15回の講義を終えて、16回目に通常の講義教室で試験をされる先生もいるので、今年度からその名の通り、15回の講義を受講、評価、認定という経過からその名に変えた。学年制から完全単位制へ移行するためのステップといつてもいいだろう。ただ、医療の学校は少人数クラスが多く、一般大学のように数百人で受講する科目はない。学生の居眠りも間近に見える距離があるので、単位制の履修スタイルと言われても、少し違和感があるのは否めない。しかし、教務の影の帝王、T先生は『はやく履正社医療専門職大学を設立し、履正社高校甲子出場に負けない大学にしましょう』と強い情熱をお持ちだが、自らの学位取得に関しては弱気な面もある。

## <やわらの窓口>

頭脳派&体育会系&ロマン派諸君のために、成績不良、進学、受験（大学および大学院進学）、接骨院（運営コンサル）&デイ開業、恋愛&結婚、出産&子育て&介護保険まで、全てのコンサル、24時間窓口を開いています。思い立ったが、次のアドレスへ、ゴーゴー、ヒューヒュー [tanaka@riseisha.ac.jp](mailto:tanaka@riseisha.ac.jp) まで